

國民幼稚園の名に於て

國民幼稚園の中心主義 (一)

倉橋惣三

一月の週報第二三號に斯う書いてある。「なぜ小學校が國民學校に改められるかと言へば、國民學校で行はるべき教育が、一、國民全體が必ず受くべき教育であること。一、その内容が國民生活に須要なものであること。一、その目的が國民の基礎的鍊成に存してゐること。等によるのであるが、また小學校といへば、何さなく弱小な氣がし、鍊視されるばかりでなく専ら上級學校への準備を行ふ學校であるやうな感じを起させ、小學校が完成教育であることを忘却させる傾向があることも國民學校を改稱される理由であること。これをあさの方から見ていくと、就學前教育は徹底的に完成教育でないし、さうまでも可愛らしいのであるから、幼稚園の名でいい。そのために幼児が年長兒童より弱小に感じられるからして輕視する淺薄者もあるまい。次にその目的であるが、それは明かに「國民の基礎的鍊成の基礎に存してゐるのであるから、學校の上に、國民を冠する」と同様に、幼稚園の上に國民を冠して何んの異議もある筈がない。實際、就學前幼兒期の保育施設は、傳統的にも時局的にもいろいろの方角からの必要觀に出發させられてゐるが、歸著するところは國民教育のための外の何ものでもあり得ない。従來そこに自覺が徹してゐない點があつたら速にその誤りを正すべきのみである。その次は教育内容であるが、未だ普通教育ではないから、生活に須要なるものとしての實質的知識技能を内容とするのではない。しかし、幼兒期に於て成育もされ鍊磨もされる生活態度、生活活力が國民生活に於て、必須中の必須であることは論を俟たない。殊に國民學校の教科科目の本旨が、知識技能そのものでなくして、國民としての生活の充實にあるのであるから、それを基礎づけるものとして、幼兒期の鍊成が國民生活に須要なるものでなくて何んであらう。換言すれば、幼兒教育も「皇國之道」教育そのものなのである。

則ち、國民幼稚園の中心主義は、國民學校の中心主義と全く同一である。たゞ、國民學校に就て言はれてゐる處の「國民全體が必ず受くべき教育」といふことだけは、現状に於て相違があり、國民幼稚園が國民學校と未だ同一でない一點である。がしかし、主張さし目標としてそのことを期待してゐるのみならず、國民全體が受くべき教育であるといふことこそ、幼稚園を國民幼稚園たらしめる信念なのである。

之れを要するに、國民全體のための幼稚園、それも國民鍊成の基礎機關たることを第一義とする幼稚園。これが、國民幼稚園の名に於て、われらの思考してゐる幼兒保育機關である。